

発言No.

15

受付No. 11

令和 6年 2月 15日  
9時 40分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 20 番 氏名 西 田 清 久

答弁を求める者  市長  教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1 三桜酒造跡地の利活用について

##### (1) 石見神楽伝承館と浜田郷土資料館併設の考え方について

① 石見神楽伝承館と浜田郷土資料館を併設で検討された理由について問う。

##### (2) ふるさと応援基金の活用の考え方について

① ふるさと応援基金の残高が約 25 億円あると言われるが、事業費にどれ位取り崩そうとイメージされているのか問う。

##### (3) バックキャスティングの考え方について

① バックキャスティングは、浜田市の「あるべき未来」を描き、そこから逆算して現在行うべき事業や活動の優先順位を決めることであって、正反対の手法にフォアキャスティングがある。これは現在を始点として現状からの積み上げの結果として創造されるものであり、未来像が望ましいものであるという保証はない。

市長の言われる「今なら整備できる」という考え方は、フォアキャスティングだと思うが、望ましい未来像についてどのように描いておられるのか問う。

##### (4) 三桜酒造酒蔵の活用について

① 昨年 3 月定例会議一般質問では、酒蔵は老朽化が進んでいることや残せば多額の費用を要するという理由から更地で取得することが決定された。しかしながら 200 年以上にわたる造り酒屋の歴史と文化を価値の検証も行われずに取り壊されることが浜田の歴史を創ってきた多くの先人に対して申し訳ない思いが湧いている。

検討委員会でも「幅広い世代が憩い、くつろげる場」を望む声が多く、にぎわいや豊かさを生む空間には酒蔵のリノベーション活用が最も望ましいと考えるが、改めて市長の所見を問う。